

令和6年度 学校関係者評価書

1. 4つの「重点的な取組事項」について

(1)「自己評価書」全般について

- 自己評価書は、具体的に細かく分析されています。加えて単なる評価分析に終わらず、最後の「まとめ」には今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性が示されているので、校長先生の思いは、学校関係者にもよく伝わります。
- 4つの重点的な取組事項の、「目標実現に向けた取組み」各項目の評価も、◎4、○12、△4と適切な評価がなされており、昨年度の学校関係者評価において指摘されていた、「（自己）評価が低すぎる」、ということは感じません。
- 以上より、4つの重点的な取組事項の達成度合いを含めた学校自己評価は概ね適正と考えます。

(2)「学力向上アクションプラン」について

- 少人数指導・校内研究で一定の成果が上がっていることは喜ばしいが、2月の到達度確認調査において、一部学年の算数通過率が目標を下回ったことは残念。次年度の目標達成に向けた取組みに期待します。

(3)「体力の向上」、「心の醸成」、「保護者・地域との連携協力による教育活動の充実」について

- 達成出来ている項目（◎・○）は次年度も良い状態の継続を期待します。また、△としている項目については、記載されている改善に向けた取組みが、次年度着実に実践できることを期待します。

2. 学校関係者としての思い

- 開かれた学校づくり協議会は、今後も先生・保護者・地域とのコミュニケーションを最重視していきます。
- 一方で、今年度、校長先生からも適宜説明があった、①学校経営における大きな変更としての学校週休2日制にむけた取組みや、②今年度期中に発生した教職員の欠員等による、学校教職員の指導体制の変更対応について、その取組・対応や評価は、「自己評価書」の、最後の「まとめ」の中でも触れて頂いても良いと感じます。
- また、本協議会は、区教育委員会に対して、今年度期中に発生した教職員の欠員等の、年度初に想定できない事象が生じた場合の学校へのサポート体制の一層の充実を求めます。
- 本協議会は、今後も先生、保護者がさらに活躍できるような環境作りに寄与していきたいと考えます。